九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[013]九州大学ビジネス・スクールニューズレター

https://hdl.handle.net/2324/2228921

出版情報：九州大学ビジネス・スクール ニューズレター. 13, pp.1-, 2011-12. 九州大学ビジネス・スクール
バージョン：
権利関係：

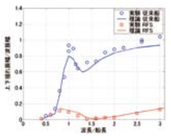
TOPICS

QBS教員紹介

今回のQBS教員紹介は、吉田基樹教授です。

私にとってMOTとは、「算盤珠に乗った数学と物理学」の実践に他なりません。今取組んでいるその課題は、「定時性、耐波浪衝撃性を核とする新しい高速海上輸送システム」の開発です。船による大量安価な貨物輸送は古来経済的なものですが、一方波による欠航や到着遅延或は貨物波損が大きな確率で生じます。そこで、波によって揺れない船を考えねばなりませんが、アイデアの発端は波浪中船体運動微分方程式中の復原力項を消去することでした。抑々船の船たる所以はこの復原力項にあるのですが、この常識を否定すると船の揺れが減ずることは運動方程式からすぐ予測できます。この「船」は、貨物重量は従来通り水の浮力で受けるが、波の影響を受けないよう主要船体を潜水させ、姿勢を航空機のように翼で制御する概念となり、Resonance-Free SWATH（RFS）と呼びます。

扨、この数学予測に基づいて、難解極まる理論計算と体力消耗の甚だしい模型水槽実験（写真）を年寄りの冷水作ら周囲の協力により試み、理論値と実験値とがよく一致した結果（図）を得ました。図には40 knotsで太平洋向波中を走る従来コンテナ船とRFSとの揺れの比較を示していますが、台風時に最大エネルギーを持つ波は波長/船長230m比=1.6ですので、この時RFSの揺れは従来コンテナ船の1/57まで低減され、数学予測が実証されました。何件かの国内外特許も取得済みです。



MOTの基礎と言うべき上記数学物理系の仕事は一段落し、現在は算盤珠の方に取掛っています。即ち、日本の貿易、生産物流に定時性概念を導入するRFSを中心とした新しい高速海上輸送システムの設計であり、燃料効率の精密検討、船舶、港湾、在庫、荷役設備、要員、内陸リンク系統の設計及び投資額試算、従来コンテナ船や航空機との経済性比較並びにtime-sensitive、high-valued航空貨物のRFSへの分捕り等です。大型ガス・タービン8基を備え40 ftコンテナ540個積んで排水量24000 tonのRFS船価は少し古い試算で1隻336億円となります。太平洋航路5日間を毎日便の運航とする11隻のRFS建造費を含めた総投資額は5000億円を超えるでしょうから、投資効果の詳細計算並びに資金の確保が究極の問題となります。当面は、試作船建造に向け、学生諸君を初め産学官に対し本概念への同調者を募る努力を続けたいと考えています。

吉田　基樹（知的財産管理、生産管理）

QBS BOOKレビュー「この1冊」

今回のQBSブックレビューは、村藤 功教授のおすすめの「この一冊」です。

「CEO・CFOのためのIFRS財務諸表の読み方」
石田正、高原峰愛、村藤功　中央経済社2011年9月

この本では二人の公認会計士と共に私も一言述べています。石田さんはもともとアーサーヤングのヨーロッパ責任者で、その後マクドナルドの副社長だった頃の私の顧客です。高原さんは、アンダーセンが破綻する前は、私の財務戦略チームのメンバーで共にM&Aをやっていました。

東日本大震災前は、日本の会計基準を2015年までに放棄して国際会計基準を採用する意思決定を2012年にする可能性が高いといわれていました。しかし大震災のために日本における国際会計基準の2015年からの導入が見送られました。ただ、企業活動が国境を越えて国際化し、投資家のお金がグローバルに移動する状況は変わっていません。世界標準の会計基準で企業財務の現状を把握する必要は依然としてあります。経営者は国際会計基準導入による財務経営戦略への影響を把握する必要があります。

今後は、グループ全体をバリューチェーンごとに括った連結事業部のポートフォリオとして捉え、連結事業部の企業価値を最適化することによって、グループ全体の企業価値を最適化することが必要です。現在の日本企業は、連結事業ポートフォリオの最適化を考えるための連結事業部制の導入がほとんどできていません。日本の成長が止まり、アジアが高成長を続ける今、アジアを含めた連結事業ポートフォリオの最適化が必要です。自社の将来ビジョンを考えるための一つの資料としてこの本を読むことをお勧めします。

村藤　功（企業財務、企業創造価値創造とM&A）

第15回 ICABE学生交流プロジェクト【北京訪問】

今回のICABEは、現地集合・現地解散としたため、特に初日はスケジュール通りにスタートが切れるかどうかと大変心配でしたが、参加メンバーそれぞれの主体的、自主的、協力的な行動により、所定の2日間のプログラムを成功裡に終えることができました。

プログラムの柱は次の2つです。1つは、中国人民大学ビジネス・スクール（RBS）とのワークショップです。ここでは、高田准教授のファシリテートにより、Design Thinkingの手法を用いたビジネスアイデア創出に関するワークショップを行いました。QBSとRBSの混成チームを形成し、限られた時間の中で、英語で議論し合うことはとてもエキサイティングな体験でした。もう1つは、現地企業で働く人たちへのヒアリングです。環境ビジネスに携わる現地ベンチャー企業で働く日本人や、同じ現地日系企業に勤めるのでも、日本人と中国人の双方の立場から話を聞くことができました。そうした“生の声”を聞き、中国でのビジネスは決して簡単なものではないと実感しました。情報の洪水や風聞に左右されないためには、やはり現地・現場での直接対話が重要です。

2日間という短い期間でしたが、当初の目的を達成し、参加メンバーそれぞれが今回のプログラムから得られたものは大きいと確信しています。今後もますます進化していくだろう夢・実りあるICABEプロジェクトに期待します。

黒瀬　浩希（8期生）

QBSの交換留学制度を利用して

QBSの留学制度を利用し、今年の2月から7月まで上海にある復旦大学へ留学しました。復旦大学は中国でもトップクラスの名門大学で、広大なキャンパスとインターナショナルな環境の中、非常に有意義な留学生活を送ることができました。

授業での1コマ

授業は中国語ですが、インターナショナルコースも受講でき、中国語でファイナンス関係を、英語でマーケティングを学びました。授業は非常にハイレベルで大変でしたが、クラスメイト達の協力もあり楽しく学ぶことができました。学生達は仲間意識が強く、授業外でも一緒に食事をしたり旅行へ行ったりと一生を通して付き合える仲間が出来たのはこれからの自分の中国ビジネスにとって非常に大きな財産になったと思っています。

右から3期生豊住さん、花田、8期生山田さん、出頭教授、村藤教授、2期生張さん

右から昨年交換留学制度でQBSへ留学していたYao、Helen、友人、花田

また学校外でもQBS関係者はもちろん、九大のOB会や県人会などで人脈ができ、それらの中で毎年上海へ留学に来るQBS生のことが知られた存在となっていることを嬉しく思いました。

大学では留学生寮に住んでいたため、多くの留学生仲間もできました。特に多かったのが世界中から来ている華僑や華人達で、一度彼らのルーツである町へ一緒に連れて行ってもらったことがあるのですが、生まれたのは別の国でも中国へ戻って来た彼らに今の中国の勢いを感じました。

半年という短い期間でしたが、ここにはとても書き尽くせない多くのことを学び、知り、感じることができました。少しでも迷っている方は是非参加してみることをお勧めします。

花田　絢子（8期生）

修了生紹介

鶴岡 良一さん（4期生）
所属
株式会社キューキ
（H24年1月より
九電テクノシステムズ株式会社）

QBSを修了して、早いもので4年が経とうとしています（今でもレポート期限に追われる夢をみます-笑）。あの刺激的で密度の濃いカリキュラムや個性的でハートフルな先生方、苦楽をともにした仲間の絆は、今でも私の大きな財産です。

修了後もQBSネットをきっかけにして、仕事のことや自分のキャリアなど気軽に相談できる異業種の友人がたくさん増えて、志を同じくするネットワークが広がっていることを実感しています。

また、ここ2年くらいグループ事業再編業務に従事してきたこともあり、DCFによる企業価値評価から組織マネジメントまで、QBSで学んだ知識や経験が本当に役にたっており（偶然ではありますが）、まさに「学びを実践に」「実践を学びに」を地でいっているような毎日です。

私こと、H24年1月より設立される「九電テクノシステムズ株式会社」で、新たなスタートをきることになっています。自分自身の成長と自己実現がQBSへの恩返しになると確信し、明日のエネルギー社会を創る「夢」を実現すべく、これまでの点と点を繋げていきたいと思っています。

岡本 洋幸さん（6期生）
所属
財団法人 九州経済調査協会

QBS在学時より、自社の新規事業を担当している。このチャンスが巡ってきた背景の一つには、QBSに入学していたことが関係している。しかし、新規事業を進める段階になって、自身のネットワークの広がりと深さはいずれも不十分だと痛感したが、それをバージョンアップしてくれたのはQBSネットワークである。先生や同期の紹介で、先進地の見学、事業パートナーの紹介を受けるなど、QBSが事業推進のエンジンとなっている。QBSネットワークの特徴はつながりが深いことにあり、これはお互いが問題意識や志をもっているからで、異業種交流会や研究会などとの違いであろう。ビジネスには最新情報や知が不可欠であるが、自身が蓄積しても、社会変化のスピードを考えると陳腐化も速い。そのため、最新情報を持っている人とのつながりが今後ますます重要になる。QBS修了から2年、まずは担当の事業を軌道にのせ、このつながりに恩返しをしたい。

九州大学ビジネス・スクール　〈ニューズレター〉
ISSN 1882-871X
QBS Kyushu University Business School NEWS LETTER
Vol.13 2011.12

TOPICS

QBSの社会連携事業

短期エグゼクティブプログラム

11月23日の勤労感謝の日に博多キャンパスで、第2回短期エグゼクティブプログラムを始めました。受講者は昨年20名で、今年は17名です。今年の17名の内、去年に続いて今年も受講者を送ってくれた会社からが9名、新しい会社からの受講者が8名です。2年連続参加してくれた企業は、トヨタ九州、住友商事九州、ワールドイインテック、正興電機、新日本監査法人等です。福岡県からは昨年に引き続いて今年もひとり個人参加してくれることになりました。新しい顔ぶれは、NEC、NECソフトウェア、昭和鉄工、佐賀県、福岡銀行、コンダクト等です。

最大の違いは受講者ですが、プログラムとして昨年と違う点が主として5点あります。一つは、場所で、昨年は全て香椎浜のコカ・コーラウェスト（株）さわやかトレーニングセンター福岡で行いましたが今年は3回を博多駅ビルキャンパスで行うことにしました。二つ目は戦略・組織人事の内容です。昨年はビデオを見てからグループディスカッションをしていました。ビデオそのものはいいビデオだったと思いますが、アンケートでやはり生の先生が良いということだったので今年は京大の木谷先生（戦略）と神戸大学の平野先生（組織人事）にお越しいただくことにしました。3つ目は、昨年QRECを設立して、高田先生にMIT、朱先生にスタンフォードに行っていただいたことで、アントレプレナーシップ教育を強化したことです。プログラムでは個人プロジェクトとして個人別に新規事業を企画していただくのですが、高田先生や朱先生による指導会を企画しました。4つ目として中国の視察旅行先が昨年は大連で2泊3日でしたが、今年は上海・蘇州で3泊4日を企画しています。多少ゆとりを持って視察できると考えています。最後に、サバティカル関係による変化です。今年は星野先生がコロンビアのビジネススクールに行っていらっしゃいませんが、中村先生が戻ってこられたので、中村先生による経営リスク管理があります。今年も昨年のように、受講者が盛り上がって親しくなってくれることを期待しています。

村藤　功（企業財務、企業価値創造とM&A）

次世代経営者育成プログラム

「QBS次世代経営者育成プログラム」は九州における中・小企業の次世代経営者育成を目的とするプログラムで、「短期エクゼクティブ・プログラム」の姉妹版ともいうべき企画です。5月から翌年2月までの10ヶ月間という長丁場のコースですが、現在第一回プログラムを実施中で、14名の有志の参加を得ることができました。この14名の中にはお二人のQBS修了生がおられます。

この企画を策定するにあたっては26社に及ぶ九州の中・小企業を訪問いたしました。生き残り、勝ち残りをかけて奮闘する経営者のお話しを聴きながら実感したことは、中・小企業こそ就業面においても製造・サービス面においても九州産業構造の基盤を支えていること、次世代リーダーの養成は各社にとって喫緊の課題となっていること、しかしながら、日々の激務に追われ次代経営者育成のための組織制度を築くことが叶わずにいること、などなどでした。

QBSは2012年に創設10年目を迎え、2011年4月からは博多新駅ビルでの講義も開始しました。QBSは今や名実ともに九州を代表するビジネス教育の中心です。産業界の負託に応えること、なかでも、九州経済の支柱とも言うべき中・小企業の経営者育成に貢献することこそQBSにとって最重要の社会的責務と考え、このプログラムをスタートしました。

「QBS次世代経営者育成プログラム」の特徴は、経営の基礎的知識・スキルの修得に加え、プロジェクト演習の要素を取り入れたこと、加えて、経営への心組みを養う場を用意したことです。

2012年5月には第二回「QBS次世代経営者育成プログラム」を開始する予定です。QBS修了生のみならず、志ある方々の参加を期待しています。

出頭　則行（マーケティング戦略、国際マーケティング）

九州大学ビジネス・スクール［MBA課程］ 24年4月入学生　特別選抜

日時/2012年2月5日（日）
出願期間/2012年1月16日（月）～ 1月20日（金）
募集人数/若干名
選抜方法/書類審査・口頭試問ほか

■入学試験に関するお問い合わせ先
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1 九州大学貝塚地区教務課学生第四係
TEL 092-642-4167　メールアドレス kakgakusei4@jimu.kyushu-u.ac.jp
ホームページ　http://qbs.kyushu-u.ac.jp

特集 QBSビジネスプラン・コンテスト2011

Vol.13
2011.12

【コンテスト開催の背景】

去る12月11日に、QBSビジネスプラン・コンテスト2011を開催しました。ビジネスプラン・コンテストは、挑戦を促し、社会に変革や新たな価値をもたらす有効な手段として位置づけられ、既に数多く実施されています。

世界の大学でも既に活発に取組まれており、著名なところではMITの100K（優勝賞金額100,000ドルを名の由来とする）が知られています。MIT 100Kは、第1段階のエレベーターピッチ・コンテスト（＝個人のアイデア発案を促すことを目的とし、1分間のエレベーターピッチの出来映えを競う）、第2段階のエグゼクティブサマリー・コンテスト（＝発案したアイデアをチームで検証してビジネスモデルや戦略を明確化することを目的とし、2～3ページからなるエグゼクティブ・サマリーの出来映えを競う）、第3段階のビジネスプラン・コンテスト（＝ビジネスモデルや戦略を実行可能な計画に落とし込み、事業計画の出来映えを競う）、の3つのステップから構成されており、参加する学生たちは楽しみながら事業機会を発見し、事業計画を練り上げていきます。

QBSがビジネスプラン・コンテストを開催する背景には、不確実性を増すビジネス環境下で、経営管理に必要な個々の知識や分析能力の習得のみならず、それらを動員し新たな事業創出に結びつける統合能力の涵養が必要である、との意図があります。第1回である今年は、東日本大震災という未曾有の災害を経験した直後でもあったため、「安全」と「安心」をテーマとしたビジネスプランの公募を行いました。

【QBSビジネスプラン・コンテストのプロセス】

QBSビジネスプラン・コンテストは、初めての取り組みということもあってMITのように三段階を完遂するには至りませんが、個人によるアイデアの着想と事業機会の発見を促し、チームによってその実現可能性を検証してエグゼクティブ・サマリーに纏め上げる力を養うことを目論んで開始しました。

まず第一段階として、11月3日に約20名のQBS現役生や修了生が集まり、デザイン・シンキング・ワークショップを開催しました。デザイン・シンキングは、思考力を高める有効な手法として近年注目を集めている方法ですが、今回のワークショップでは、冒頭に個人の新事業アイデアを60秒のエレベーターピッチで競う「ビジネスアイデア・ゲーム」を行い、続いてゲームの上位得点者を中心にチームを組成し、「安全・安心に関連する課題の発見とその深掘り」、「課題解決につながる多様なアイデアの創出と有望案への絞り込み」、「事業化の第一歩としてのプロトタイプ／市場テスト方法の考案」のプロセスを半日かけて行い、最後に発表会を行いました。このワークショップが、いわばビジネスプラン・コンテストに応募するチームのウォーミング・アップを兼ねていたわけです。

続く第二段階として、12月11日に九州大学西新プラザにおいてビジネスプラン・コンテストを開催しました。最終的に、「高齢者向けエンディングノート作成支援サービス」、「圧電素子による鳥獣忌避装置の開発販売について」、「農家の遊休資産及びノウハウを活用した農業機会創出の提案」、「ちゃりQ～自転車宅配サービス」の4件の応募があったのですが、うち2件は11月のワークショップ時に出たアイデアに基づいたものでした。

【コンテスト当日の様子】

コンテストは、野田稔氏（明治大学大学院グローバルビジネス研究科教授）の講演「イノベーションとリーダーシップ」で幕を開けました。21世紀の100年間に日本の人口が1／3に減ることが明らかな今、国全体のあり方を大きく変えなければならず、その変革のためには強いリーダーシップが求められている、という強いメッセージが投げかけられました。また、新たなビジネスの創造には、「徹底的に市場と対話すること」や「製品やサービスを生態系に組み込む（仕掛けや仕組みを構築する）」ことの重要性について触れられました。そして最後に、ムーブメントを創り出そうとするリーダーは最初の数人のフォロワーを大切にすべきということについて、ユニークなビデオを引き合いにお話頂きました。

その後、各チームに10分のプレゼンテーションと15分の質疑応答時間が与えられ、審査員（福岡県中小企業経営者協会連合会の小早川会長、福岡県産業・科学技術振興財団の松家専務理事、ドーガン・アドバイザーズの森社長、QBSの高田の計4名）やオーディエンスとの間で活発なやりとりが行われました。

審査の結果、優秀賞として8期生の段野さんをリーダーとする「高齢者向けエンディングノート作成支援サービス」、および9期生の川田さんをリーダーとする「圧電素子による鳥獣忌避装置の開発販売について」の2件が選出されました。これら2チームは、今後、大学からの経費支援を受けながら事業化に向けた活動を進めることとなっています。

【全体を振り返って】

以上のように、無事に初の試みであるビジネスプラン・コンテストを無事終えることが出来ましたが、一方で今後に向けた課題も見えてきました。何よりも、学生の皆さんが日頃から新事業創出のアイデアを大胆に発案し、その実現可能性を様々な角度から検証し事業計画として纏め上げるというプロセスに身近に触れられる環境を形成することが重要だと考えます。このプロセスはある種の「型」のようなものであり、何度か繰り返して経験することで確実にアウトプットの質向上が見込めますので、多くの人にこのスキルを身に付けてもらっておいて、「いざ鎌倉！」という時に素早く能力や人脈を総動員し、新事業の創出に向けて行動できるようにしておくことが肝要かと思います。

QBSの教員と学生が一緒になって、関違でアントレプレナーシップ溢れる学びの環境を形成できればと、本コンテストを振り返って強く願う次第です。

最後に、本コンテストの運営にご協力頂いた全ての方々に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

髙田　仁（産学連携マネジメント）

コンテストを終えて

私は今回「QBSビジネスプラン・コンテスト2011」の実行委員長を努めさせてもらいましたので、ここではイベントの運営側という立場から感想を述べさせていただきます。我々9期生にとっては初めての大きな企画であり且つ、私自身このような大きな役回りを任せていただくことが初めてで大変苦労をしました。一人ひとりが役割を持って動く、机上の勉強だけでなく、実際に組織をマネジメントする機会となりました。

今回一番難しかったことは、当然ではありますが自分自身を含め、皆が普段は仕事をしているということでした。残業もあれば出張もある、社会では当然なのですがそのハードワークの中で、更にこのイベントを企画運営していかなくてはなりませんでした。学生間における調整、大学側との調整、発表者や外部との調整など、多様な関係する人々との間を繋げることは難しいものでした。

そのような中、いよいよ当日の開催にたどり着くことができましたが、実際はどれだけの人が来てくれるだろうか、最後まで無事終われるのだろうかと不安でいっぱいでした。しかし、終わってみれば清々しく、胸に深く残る良いものとなりました。多くの方々に足を運んで頂いたことはもちろんですが、ご講演の先生の感動するお話、4つの練りこまれたビジネスプランがそこにはありました。そして一番大きかったのは仲間達と一つになることができたことです。自分がうまく皆をまとめあげることができないときに、たくさんの声かけや手を差し伸べてもらいました。最初から完成された組織は存在しません。組織・チームは共に同じ時間や経験、成功も失敗も共有することで成長するのです。そのことを痛感したとても素晴らしい体験でした。このことをQBSではもちろん、自分の職場においても肝に銘じて今後に活かしていきたいと思います。

菅原 知之（9期生）

最初は運営側としてビジネスプランコンテストをサポートする側にいたのですが、あまり応募の集まりがよくありませんでした。表舞台が一番面白いのにという思いから、それならばと自ら応募者側に移ることにしました。さて、応募するためにはメンバーを集めなければなりません。現役生は余裕がなさそうだったので、QANの友人とワークショップに来ていたQANの方を誘って快諾いただきました。最終的にはもう一人QANから加わり、現役1人+QAN3人という優秀なメンバーが集まりました。しかし、プランの方は難航を重ねました。「安全・安心」がテーマですので、いま危険なこと不安なことについて洗い出したものを土台として、課題解決のための新技術やイノベーションやセグメンテーションなどを重ね合わせてビジネスの芽となりそうなものを探しました。ワークショップで習ったスキルを駆使してなんとか一つ生まれてきました。このとき永田先生がチームでの応募を条件にした意味がよく分かりました。アイデアや思考が大きな発散と濃い収斂を経て、一人では決してできないアウトプットを創り出したからです。道筋が見えたので技術、理論、材料、マーケティング、財務を分担してサマリーを作ることにしました。しかし、材料が高く競争できる価格にならないこと、狙う市場にニーズが余りないことが判明してプランは破綻し、締切1週間前に再度集まることに。アイデアをひっくり返し、議論を重ね、なんとかまた素晴らしいプランを創りました。どうにかエグゼクティブサマリーを提出しプレゼンテーションの作成に取りかかります。QBSの授業で習ったことを最大限活用して、自社の競争力、お客さまへの価値、競合、市場を盛り込んだ論理的かつ分かりやすいプレゼンテーションを本番の数時間前まで作り込みました。チームメンバーの強い要望により、人類の革命の歴史から始まる壮大なプレゼンとなりましたが、本番では「プレゼンが上手い」という嬉しい講評をいただきまして、高得点で栄えある第一回の優秀賞をいただくことになりました。これから活動支援費をいただき、報告会へ向けなにかしの活動を行っていくことになります。ビジネスプランコンテストではビジネスの芽を創る難しさを学びました。これからはアイデアを実行に移す難しさを学んでいくことでしょう。引き続きチームが存続するのはとてもうれしいことです。メンバーの皆様、運営の皆様、当日来て頂いた皆様ありがとうございました。

川田 賢一郎（9期生）

※本ビジネスプラン・コンテストは、九州大学EEP（教育の質向上プログラム）による学内支援を受けて行われました。

QBS交換留学生・企業訪問

11月18日（金）と11月21日（月）に、QBS在校生と短期交換留学生の一行がコカ・コーラウエスト基山工場と鳥栖プレミアム・アウトレット、TOTO小倉第一工場とトヨタ自動車九州若宮工場に企業訪問しました。

コカ・コーラウエストでは、シロップ室、充填室、ハッキング室などの生産現場を見学することで、当社の高度な自動生産設備を見ることができました。アウトレットでは、当社独特な「欧米風の町」の経営理念を感じて勉強になりました。TOTOでは、ハイ・テクノロジーであるセフィオン釉薬の優位性と4．8L便器の作り方を見学しました。トヨタ自動車では、エンジンの組み立てから完成品までの生産過程を見学し、留学生たちはリズムの速い生産現場に深い印象を持ったようでした。

二日間の企業訪問を通して、留学生たちは日本のものづくりや日本企業のビジネス文化などをよりよく理解することができたようでした。

朱　晨銘（8期生）

第一回 九大アラムナイフェス開催

10月22日（土）に九州大学福岡同窓会主催の第一回九大アラムナイフェスが、50周年記念講堂で開催されました。あいにくの天気でしたが、1000人を超える方に来場いただきました。

QBSの皆様には、チケット購入、ビジネスカード協賛広告、ブース出展、企業協賛等でお世話になり、大変感謝しています。

福岡同窓会（2011年4月設立）自体がゼロからの立ち上げで、資金もなく、短い準備期間の中で、アラムナイフェスをなんとか形にできたのは、素晴らしいことだと思います。また、準備活動を通じて新たなネットワークも生まれました。

九大は卒業生が22万人もいるにかかわらず、今まで全学同窓会もなく、ネットワークもありません。

また、歴史ある各学部の同窓会も、形式的になり、若い層が参加していません。

福岡同窓会は、7年前に設立された東京同窓会や各学部同窓会及び活動団体と連携しつつ、若い層も参加しやすく、ビジネスにも活かせる新たなネットワーク作りを目指しています。

その意味ではビジネススクールが中心になってもよいかと思い、理事やアラムナイフェスの実行委員になっていただきました。

今後は、ビジネス分科会を立ち上げていきますが、QBSともより連携しつつ、新たに生まれたネットワークを活かしていきたいと思っています。皆様の参加をお待ちしています。

九州大学福岡同窓会理事兼幹事長
鎌田 幸治（5期生）

在校生紹介

中野　広さん（8期生）
所属
株式会社デンソー九州

QBS生活も終わりに近づき、寂しさを感じる今日この頃です。仕事と家庭の両立に不安を抱えながらも挑戦して良かったと心から思っています。私のQBS生活を振り返ってみたいと思います。1年の前期は、基本科目中心でした。夏の集中講義で受講した「国際企業分析」での英語による授業に衝撃を受け、後期は英語の授業のみ4科目を受講しました。不慣れな英語に苦しみながら、短期交換留学生とディスカッションした日々を懐かしく思います。年末には工学部水素エネルギーシステム専攻とQBSとの混合チームで、アメリカのエネルギー省主催の国際学生ビジネスプランコンテストに参加し、6位入賞を果たしました。3月にはICABEでシンガポールに行き、2年前期ではMOTやイノベーション関連を中心に受講。後期では大学院共通科目で他学府の学生などと技術経営や公共政策を学んでいます。3月には早稲田大学と共同でのシリコンバレーへの研修を予定しています。このようにQBSにはさまざまなプログラムが用意されており、目的に合ゐわせた自分なりの楽しみ方ができます。自己実現、自分探しの旅に挑戦してみてはいかがでしょうか。

許　真珠さん（9期生）

QBSを選択した理由は色々ありますが、一番大きな理由は現役社会人と一緒に学べるということ、日本語だけではなく英語で行っている授業も多く、日本語でも英語でも学べるということでした。

特にQBSは、経営学に関わる基本的な科目及び日本の経営・経済、そして世界の企業やMOTと関連した科目がバランスよく開設されているので、「経営」そのものの学習だけではなく、日本のビジネスや世界のビジネスも学ぶことができ、入学して半年しか経っていませんが、より広く社会を見ることができるようになったと思います。

私は韓国人ですが、一緒に勉強している社会人の先輩との交流で、日本のビジネスマナーや文化を学べるのもQBSの長所だと思います。以前は、日本は同じ文化圏だと思い込み、生活・ビジネス上に誤解などがあり、大変だったこともありましたが、QBSに通いながらそういう部分についての根本的な違いも分かるようになりました。

ビジネスに関して全般的に理解したい方、社会・経済をより深く理解したい方、仕事の上で勉強の必要性を感じている方や日本とのビジネスを考えている方には、ぜひQBSで一緒に勉強しましょうと言いたいです。

編集発行／九州大学ビジネス・スクール
担　　当／QBS事務室
住　　所／〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
電　　話／092-642-4278
メールアドレス／bs@en.kyushu-u.ac.jp

●九州大学ビジネス・スクールに関するお問い合わせ
〒812－8581 福岡市東区箱崎6－19－1
九州大学貝塚地区事務部教務課学生第四係
TEL.092-642-4167
ホームページ http://qbs.kyushu-u.ac.jp/